

6月10日は「時の記念日」

「ほっとやまはく」

タイム⑮



時の記念日を知っていますか？ 時間に正確といわれる日本人の時間意識の礎をつくった記念日です。この「時の記念日」について紹介します。

1920年、東京教育博物館（独立行政法人国立科学博物館の前身）において、国民に時間を意識して生活するよう促すため「時」展覧会が開催されました。この展覧会の大盛況が契機となり、会期中に「時の記念日」が制定されました。時報に関する最も古い記録

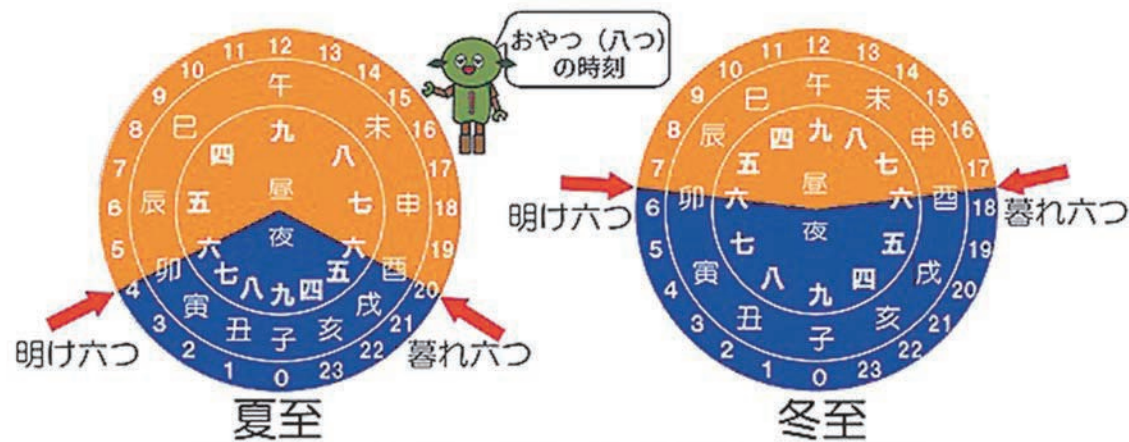


萩城の櫓時計

正確な時刻が現代社会を支えている！

1920年以降、「時」に関する展覧会が各地で開催され、道行く人に時計を合わせるように促し、正午の時報に合わせ大砲や寺院の鐘が一斉に鳴り、時計の正確さを競いました。そうして、時への意識が変わり今に至っています。また、正確な時計を作る技術が現在の日本の産業の礎となり、正確な日本の標準時がわれわれの生活を支えています。人工衛星に積まれた原子時計が1億分の1秒以上の精度で制御

不定時法の時刻



外周の数字は、現在使われている時計のおよその時刻です。

制定までの日本の時間意識は？

天文学者は、太陽や月や星の動きを調べることで正確な暦を作り、正確な時刻を決めてきました。

ただ、カーナビゲーションやスマートフォンの位置情報が成り立っています。天文学では電波望遠鏡でもっと精密な100億分の1秒以上の精度で地球と宇宙を測り、遠くの天体の細部を見分けることができます。現代社会では、多くの場面様子をバーチャルで観

た。日本では古くから日時計や漏刻などを使って時を知りました。管理や精度に問題があったため、やがて西洋で誕生した機械式時計に代わっていきます。日本で最も古い機械式時計の記録は、1551年フランススコ・ザビエルが山口の大内義隆へ贈った物とされています。これ以降、管理がしやすく優秀な機械式時計に代わったと考えられます。当館には江戸時代末期の萩城で使われ、当館で修復された櫓（やぐら）時計が収蔵されています。

1872年の暦の変更まで、時刻制度は夜明けと日暮れを基準とする「不定時法」で、昼と夜の長さをそれぞれ6等分して時刻を決めていました。しかし、季節により時間の長さが変わるため、曖昧なものでした（図参照）。このこともあり、時刻は主に領主たちによって管理されていました。昼夜を通して城の鐘、寺の鐘など「時の鐘」で時刻を知らせていたので、その後、明治時代になり機械式時計の輸入や鉄道の発達とともに時への意識は少しずつ変わりはじめましたが、昔の日本人は時刻におおらかだったようです。

岩村和政（学芸員・天文分野担当）
▽次回は22日です。



近江神宮の漏刻模型（滋賀県大津市）

山口県立山口博物館
TEL 083-922-0294
月曜休館（祝日の場合は翌日）。
最新情報はホームページで。

